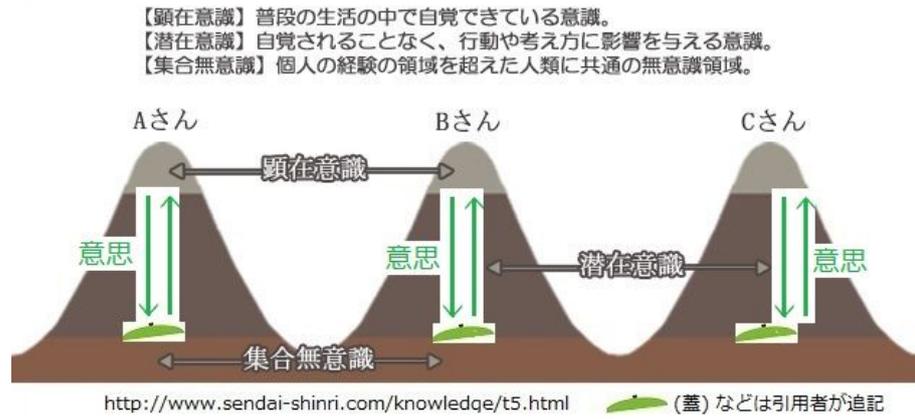


「世界中からの殺戮を許さない言論 (=意思)」が物質的な力を持つメカニズム

(1) ユング心理学によれば、人間の心の構造は右の図のように次の3層からなります。

- ①意識 (顕在意識ともいう)
- ② (人的) 無意識 (潜在意識ともいう)
- ③普遍的無意識 (集合無意識・集合的無意識・集団的無意識・集団集合の無意識ともいう)

①は個人ごとに異なる意識で、②は個人ごとに異なる無意識です。③は個人を超えて全ての人に共有された無意識です。



このように人間の心に3層あるとするのは、西洋心理学の独断ではありません。東洋の仏教の唯識論ゆいしきろん (仏教心理学) でも、人間の心には「意識 (①にあたる)」「末那識まなしき (②にあたる)」「阿頼耶識あらやしき (③にあたる)」の3層あるとし、更に阿頼耶識の下に万物 (生きとし生けるものすべて) に共有された無意識もあるとしています。

西洋と東洋という歴史も文化も異なる地域で、両地域の人々が人間の心理について共同研究をしていない段階で既に同じような学説が唱えられたこと自身が普遍的無意識の存在を実証しています (ユングが意識の上で阿頼耶識のことを念頭に普遍的無意識を打ち出したとは聞かないのですが、もしそうであれば、この3行は削除いたします)。

(2) ある人が「殺戮を許さない」との意思を言論すれば、その言論は、直接に物理的に届く範囲の人々の視覚・聴覚を通じてその人の意識・人的無意識に働きかけて、その人をして殺戮を許さないとの意思を形成させる契機をもたらし、何人かがその意思を持つこととなります。「意思を持つ人間」は存在するだけで物質的な力です。侵略 (殺戮) 者が「殺戮を許さないとの意思」を消すためには、その意思だけを取り出して消すことはできず、その意思を持つ人間を抹殺するために物質的な力である武器を必要とすることがそれを実証しています。

「殺戮を許さない」との言論は、直接に物理的に届く範囲の人に届くだけではありません。その言論に意思を込めて世界に向けて発すれば、全ての人に共有された無意識である普遍的無意識を通じて、その意思は全ての人に届きます。

ただその場合、2つのことがなければなりません。1つは、本気で世界に向けて意思を伝えるための言論を発することです。それをしなければ、言論を発する人の世界の人につながる普遍的無意識の蓋が開きません。もう1つは、世界の人々が1人1人持つ普遍的無意識の蓋が開かなければ、普遍的無意識で運ばれたこちらが発した意思は相手に受け取ってもらえません。世界の人々の普遍的無意識の蓋が開くためには言論を発した人の意思を受け入れてもらえるレディネスが必要で、それは、普段から互いに友好的な関係にあることです (下に、レディネスの注)。そのために、全ての国の人々との強力な国際交流・国際協力、支援を必要とする全ての国の人々への強力な国際支援、全ての国との強力な友好関係の樹立・維持が絶対的に必要です (1部の国とのみ友好関係を続けるのは反発を招くのみで、これは国家安全保障の観点から見て最悪です)。こうして、普遍的無意識を通じて「殺戮を許さない」との意思を受け取った世界の人々が、国連での演説や国際報道などによって、「殺戮を許さない」との言論を視覚・聴覚を通じて受け取ったとき、一気に「世界中からの殺戮を許さない言論 (=意思)」が形成されます。何億人もの「殺戮を許さないという意思を持つ人間」の存在は巨大な物質的な力です。その巨大な物質化した意思に基づく言論は、視覚・聴覚を通じて侵略者の侵略の意識・無意識を粉碎します。また、彼らの普遍的無意識の蓋を破碎して彼らの心に入り込んで戦意を喪失させます。

国防の命題「他国から物質的な力である武力で攻撃・侵略されたとき、言論による反撃は武力による反撃の代わりはできない。しかし、世界中からの言論による反撃は、武力をはるかに凌ぐ物質的な力となる。」が導き出された背景の1つは、以上のようなメカニズムの存在です。

(注) レディネスとは、心理学の用語の一つで、何かを習得・学習する際、それに必要な条件や環境が学習者側に整っている状態。

ご参考

戦後日本人の戦争忌避精神は集団的無意識 (<http://pdffile.cocolog-nifty.com/blog/files/52.pdf>) <クリックして下さい>